

第3学年3組保健体育科学習指導案（学習指導案）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柴田, 広祐, 伊藤, 紫乃 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010396

第3学年3組 保健体育科学習指導案

指導者 柴田 広祐
伊藤 紫乃

1 学習のくくり「健康な生活と病気の予防」(17時間)

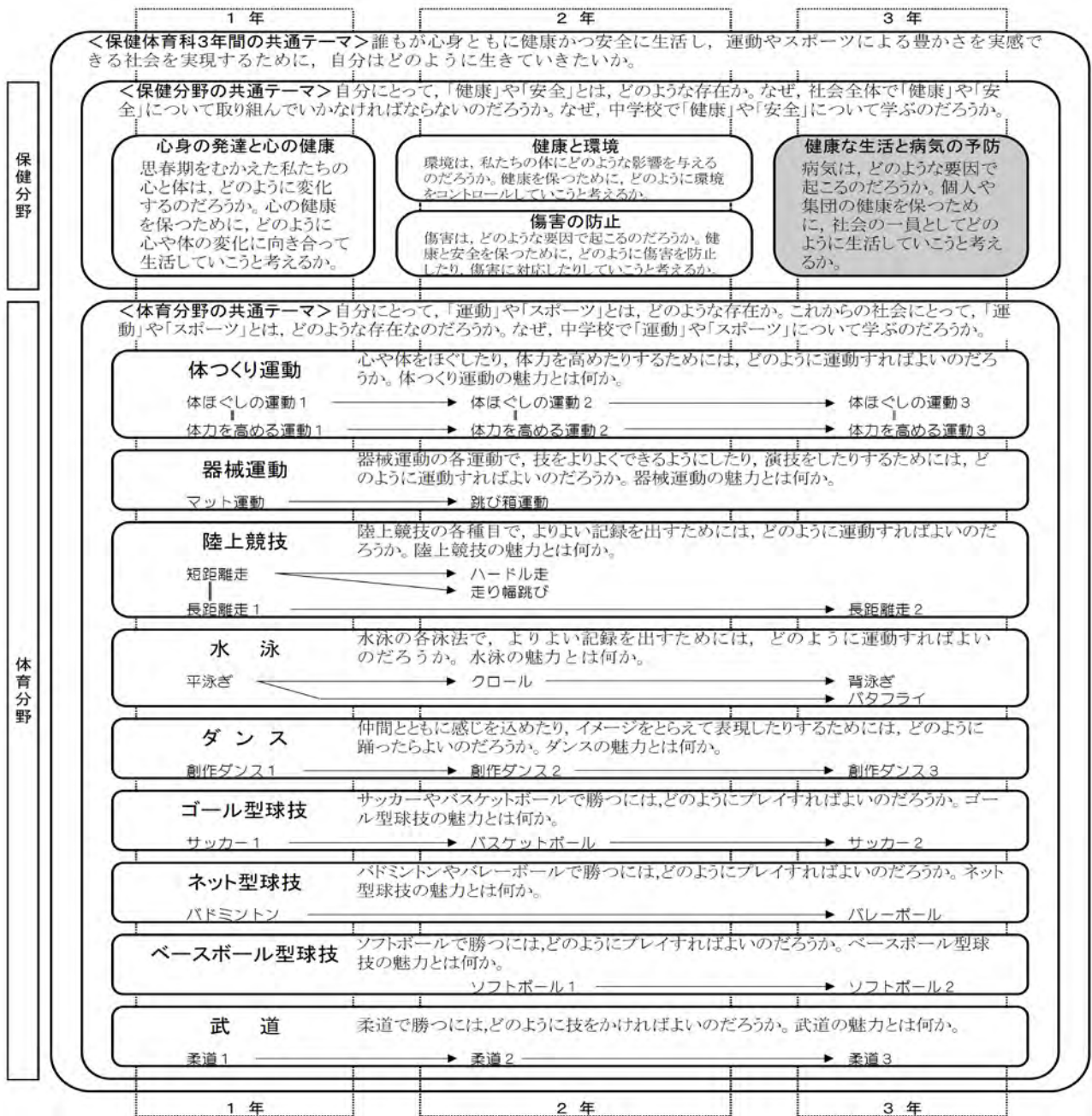
2 共通テーマを軸とした教科カリキュラムの構想図

保健体育科3年間でめざす姿

生涯スポーツや健康・安全上の課題解決に必要な実践力を高めるとともに、現在および将来における、自他の明るく豊かな生活実現に向けて、主体的に運動やスポーツを活用したり、自他の健康を保持増進したり、安全を確保したりしようとする生徒

保健体育科3年間の共通テーマ

誰もが心身ともに健康かつ安全に生活し、運動やスポーツによる豊かさを実感できる社会を実現するために、自分はどのように生きていきたいか。



学習のくくりの表記方法

学習のくくり名(ゴシック体) 共通テーマ (明朝体)
 学習内容(丸ゴシック体) → 学習内容(丸ゴシック体)

※保健分野の共通テーマ、体育分野の共通テーマ、保健体育科3年間の共通テーマは、学習のくくりではなく、全体の学習の振り返りとして扱う。

3 学習のくり「健康な生活と病気の予防」について

(1) 学習の構想表

学習活動 (下線部は本時の学習場面)		知識		スキル			情意	
		A 内容	B 方法	C 認知	D 身体	E 社会	F 興・関	G 追究
ガイダンス (1)	《共通テーマと共通課題の理解》 ○私たちの健康の成り立ち 健康が主体の要因と環境の要因のかかわりによって成り立っていることを学習し、学習全体の見通しをもつ。また、共通テーマや共通課題について理解する。	1	1	1				
		2	2		-	-	3	2
		3		2				
		4						
つかむ学習 (13)	○生活習慣と健康 (2) 健康によい食事の仕方、日常生活への適切な運動の取り入れ方、休養・睡眠の取り方について要点をまとめる。	1	1	1				
		2	2	2	-	-	2	2
		3						
	○飲酒・喫煙・薬物乱用と健康 (3) 飲酒・喫煙・薬物乱用による身体への影響や、社会的影響について学習し、要点をまとめる。	1	1	1				
		2	2	2	-	2	2	2
		3		3			3	3
	○ミニ追究活動 (2) 人間が酒・たばこ・薬物に手を出したり、依存したりする要因を探る。 (本時2/2)							
	○感染症とその予防 (3) 感染症への感染や発病のしくみ、感染症の予防、性感染症の概要と予防について学習し、要点をまとめる。	1	1	1				
		2	2	2	-	2	2	2
		3		3			3	3
	○ミニ追究活動 (1) 現代の豊かな社会と感染症との関係を探る。							
	○健康を守る社会の取組 (2) 保健・医療機関や薬品の有効利用、公衆衛生活動について要点をまとめる。	1	1	1				
		2	2	2	-	-	2	2
	3							
追究する学習 (2)	《追究課題の設定》《追究活動》 ○共通課題を受けた追究課題の設定と「提言書」作成 (2) 健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について提言したい内容を、つかむ学習で学んだ内容の中から自己選択し、追究課題を設定する。そして、インターネットや書籍などを用いて詳しく調べ、提言書としてまとめる。	3		3	-	-	3	3
つなげる学習 (1)	《交流活動》《振り返りの記述》 ○「提言書」の交流と学習全体の振り返り 「提言書」の交流を通して、共通テーマに対する考えを深める。そして、気づきのメモも参考にしながら、これまでの学習全体を振り返り、共通テーマに対する自己の最適解を見いだす。	3		3			3	3
	【期待する生徒の表れ】 ・「提言書」の内容について根拠を明確にして説明するとともに、他者の提言に対して積極的に質問や意見を投げかけている。 ・健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について、追究する学習で選択した内容以外の視点からも意見を述べている。 ・社会の一員として、個人や集団の健康を保持増進するための自己の役割について考え、振り返りの記述にまとめている。 ・誰もが健康で豊かに生きられる世界の実現に向けた、自己の生き方や社会のあり方について、振り返りの記述にまとめている。 など	4		4	-	2	3	4

(2) 本学習のくくりでめざす生徒の姿とその姿に迫るための具体的な手だて

中学生期は、免疫力が強く身体の成長もめざましいため、健康について深々と考えたり、健康の保持増進に向けた意識や努力の必要性を感じたりすることが少ない。その一方で、食生活・食文化の急激な変化や有害薬物の市民生活への浸透、新たな感染症の出現など、健康を脅かす不安材料は多くなってきている。そのため、健康の保持増進に向けた生活習慣を確立したり、誰もが健康で豊かに生きられる世界の実現に向けて主体的に行動したりしていくことの重要性が、従来にも増して高まってきている。そこで、本学習のくくりでめざす生徒の姿を次のように設定する。

病気を予防するための実践力を身につけるとともに、誰もが健康で豊かに生きられる世界の実現に向けた、社会の一員としての自己の生き方やあり方について考える生徒
--

本学習のくくりでは、上記のめざす生徒の姿に迫るために、次の学習活動に取り組みさせる。

まず、ガイダンスにおいて、WHOによる健康の定義に照らして自分たちの生活について振り返らせることで、中学生が必ずしも健康とは言えないことに気づかせる。また、がん・心臓病などの生活習慣病や危険ドラッグ、新型インフルエンザなどの感染症が社会の大きな問題となっていることを挙げ、健康の保持増進には、個人だけでなく社会全体での取組が必要であることに気づかせる。そして、共通テーマや共通課題を確認させることで、これから健康な生活と病気の予防について詳しく学習していくことや、本学習のくくりにおける最適解について大まかなイメージをもたせる。このように、ガイダンスにおいて、健康を自己の生活と結びつけさせ生徒の内発的動機づけを図ったり、今後の学習に先行する情報を示したりすることにより、つかむ学習での知識の獲得を容易にさせる。

つかむ学習では、健康的な生活習慣のあり方や飲酒・喫煙・薬物乱用、感染症の予防、健康を守る社会の取組について、教科書を用いて解説したり、実際の事件・事故・病気の事例を示したりすることにより、ワークシートに要点をまとめさせ、基礎的・基本的な知識を習得させる。その際、特に飲酒・喫煙・薬物乱用については、「ミニ追究活動」として、人間が酒・たばこ・薬物に手を出したり、依存したりする要因を探らせる。それは、今日、新たな有害薬物が従来よりも極めて短い期間で製造され、世間に流通している反面、教科書の知識だけでは、それらの危険性を察知し避けるための実践力を十分に身につけさせることが難しいと考えたからである。そもそも、アルコール・ニコチン・乱用薬物は、全て脳神経に作用し覚醒・鎮静・幻覚などの作用と依存を引き起こす化学物質であるが、このような認識が不十分な日本人も多いと考えられる。そのため、法的・社会的に否定されていないものは、身体への作用を問わず無批判に許容してしまう危険性がある。実際に、現在、有害であるとされている薬物の多くは、歴史上、生活に浸透し健康被害や社会的な弊害が出た後に規制がなされてきた経緯があり、今後もその歴史が繰り返される可能性は高い。そこで、人間が酒・たばこ・薬物に手を出したり、依存したりしてしまう根本的な要因に迫るべく、対話的な学びとして、知識構成型ジグソー法を用いた学習を展開する。具体的には、化学物質の種類ごとにエキスパート学習を行った後、「A心身への影響」「B脳神経への作用」「C歴史・文化」「D乱用や依存の事例」の各視点からジグソー学習を行う。これにより、深い学びとして、未知の薬物に対して身体への作用という視点から注意深く対処していく見方・考え方を身につけさせる。また、感染症についても「ミニ追究活動」を設定することで、社会の豊かさを追求することが新たな感染症の脅威を生みだしてきたことを見いださせ、深い学びとして、感染症に社会全体で対処していく見方・考え方を身につけさせる。

追究する学習では、共通課題をもとに自ら追究課題を設定させる主体的な学習を展開する。具体的には、健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について提言したい内容を、つかむ学習で学んだ内容の中から自己選択させる。そして、インターネットや書籍などを用いて学習を深めさせ、「提言書」としてまとめさせる。これに続くつなげる学習では、対話的な学びとして「提言書」の交流活動を設定し、共通テーマ「病気は、どのような要因で起こるのだろうか。個人や集団の健康を保つために、社会の一員としてどのように生活していこうと考えるか。」に対する考えを深めさせる。さらに、学習内容のまとめごとにより書き留めさせてきた共通テーマに対する気づきのメモも参考にさせながら、これまでの学習全体を振り返らせ、共通テーマに対する自己の最適解を見いださせる。

これらの一連の学習活動により、病気を予防するための実践力を身につけさせるとともに、誰もが健康で豊かに生きられる世界の実現に向けた、社会の一員としての自己の生き方やあり方について考えさせていく。

(3) 本学習のくくりの共通テーマと共通課題

共通テーマ (本質的な問いの 階層レベル)	病気は、どのような要因で起こるのだろうか。(レベル ³) 個人や集団の健康を保つために、社会の一員としてどのように生活していこうと考えるか。(レベル ⁴)
共通課題	健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について提言しよう。

4 本時について（本時8／17）

（1）本時の目標

【健康・安全についての思考・判断】	資料や他者の考えを参考に、人間が酒・たばこ・薬物に手を出したり、依存したりしてしまう理由について、自らの考えをまとめることができる。 (A B 3) × (C 3) ・ (E 3)
-------------------	---

（2）学習過程

●生徒の活動 ※期待する生徒の表れ	・指導上の留意点 ○支援 ◇評価
<p>●前時までの学習内容を確認する。</p> <p>●本時の学習課題を確認する。</p>	<p>・ミニ追究活動の課題「なぜ人間は酒・たばこ・薬物に手を出したり、繰り返し使用したりするのか、自分の考えをまとめよう。」を提示する。</p>
<p>互いの情報や考えを交流し合うことで、なぜ人間は酒・たばこ・薬物に手を出したり、繰り返し使用したりするのか、自分の考えをまとめよう。</p>	
<p>●前時の薬物別のエキスパートグループ（①覚せい剤，②コカイン，③ニコチン，④カフェイン，⑤危険ドラッグ，⑥大麻（マリファナ），⑦アヘン・ヘロイン，⑧シンナー，⑨アルコール，⑩市販薬）での学習で得た知識や見いだした考えを確認する。</p> <p>●「A心身への影響」「B脳神経への作用」「C歴史・文化」「D乱用や依存の事例」の4つの視点でのジグソーグループを組み、エキスパート学習で得た知識や見いだした考えを交流し、学習課題に対する答えをまとめる（ジグソー学習）。</p> <p>●学級全体で、各ジグソーグループでまとめた学習課題に対する答えを発表し合う（クロストーク）。</p> <p>●これまでの学習を踏まえ、人間が酒・たばこ・薬物に手を出したり、繰り返し使用したりする理由について、改めて自分の考えをまとめる。</p>	<p>・ワークシートの前回記入した部分と前時に配布された手持ちの封筒内の資料を再確認させる。</p> <p>・次のジグソー学習で、自分が特に伝えたい内容を絞るよう指示する。</p> <p>・コーヒーやエナジードリンクなどのカフェインを多く含む飲料に関する本校生徒の実態をまとめた資料を、グループAとDに提示する。</p> <p>○意見がなかなかまとまらないグループには、互いの持っている情報の共通点に着目して話し合うよう助言する。</p> <p>○意見をまとめられなかったグループには、他のグループに分かりやすく伝える方法についても検討するようながす。</p> <p>・ジグソー学習の結果、薬物の特徴について明確になったことや新たに発見したこと、驚いたことなどを簡潔に説明した上で、学習課題に対するグループの答えを発表するよう指示する。</p> <p>・エキスパート学習とジグソー学習の際にワークシートにまとめた内容を振り返りながら、自分の考えをまとめるよう指示する。</p> <p>○複数の視点を整理して考えをまとめることのできない生徒には、自分として最も重要だと感じた視点にしばって考えをまとめるよう助言する。</p>
<p>●本時の学習を振り返り、共通テーマについて考えたことや気づいたことを学習計画表の「気づきのメモ」に記入する。</p>	<p>・飲酒・喫煙・薬物乱用の視点から、共通テーマに対する考えや気づきを記入するよう指示する。</p> <p>◇本時の目標について、※印のような生徒の表れが見られたか。</p>

※なぜ人間は酒・たばこ・薬物に手を出したり、繰り返し使用したりするのか、ストレスや興味などの個人的な理由だけでなく、脳神経への作用、歴史的・文化的な背景などをふまえて考えをまとめ、記述している。